

6月9日(水)陸上競技部京増さんが県高校相対で優勝、近畿大会出場について赤穂民報からの取材がありました。県高校総体(5月28日～30日)男子砲丸投げで、自己新 14m32 で優勝しました。昨年からのコロナ禍の中、県ユースの大会(記録 13m40)後から下半身を重点にトレーニングを行い体重を増やしました。その結果、パワーとスピードをつけていき、西播大会、県大会と自己記録を更新しました。

6月17日からの近畿総体でも、ベストを尽くしてインターハイ出場を目指して欲しいと思います。本人も、「自分と学校の名前が残るのがうれしい」と、さらに「これからもベストを尽くしたい」と気持ちを高めていました。

なお、下の記事は、赤穂民報に掲載されましたので紹介しておきます。

(1) 第2420号 2021年(令和3年)6月12日

赤穂民報 毎週土曜日発行

地元の味! くらしを大切にする店

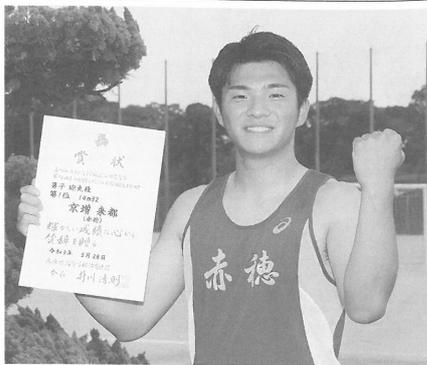


主婦の店

赤穂民報

発行所
赤穂民報社
赤穂市加里屋駅前町58-18
TEL 43-1886
FAX 46-2626
編集人 広島秀紀
発行人

県高校総体の男子砲丸投げ 自己ベストで優勝 赤穂3年の京増来都君



陸上の兵庫県高校総体(5月28～30日、神戸ユニバー記念競技場)で赤穂3年の京増来都君(17)が中広君(17)に男子砲丸投げで優勝した。全国高校総体(インターハイ)出場がかかる近畿総体(6月17～20日、同競技場)に出場する。決勝1投目は意気込みが強すぎてファウ

ル。「修正した」という投目でマークした自己新の14m32が優勝記録となった。昨年8月の県ユースを13m40で制した後、さらなる向上を目指して身体づくりから取り組んだ。ジャンプやパールのトレーニングで下半身や背筋を重点的に強化することも食事意識して増量。シーズンまでに体重は10kg増え、「パワーとスピードがついた」という。

その結果、西播大会で13m77、今大会の予選で14m06と、投げるたびに自己記録を更新。決勝の試技も「びっぴり」はまった感じはなかったけど、思ったより砲丸が飛んだ」と自分の感覚以上に記録が伸びているという。指導する肥塚直樹顧問(59)は「精神面が強く、試合で崩れない。さらに練習の裏付けが自信につながっている」と成長ぶりを評価。「条件が揃えば15m台も可能」と話す。

同種目で同校から県総体優勝者が出たのは今回が初めてで、「自分と学校の名前が残るのがうれしい」と京増君。インターハイ出場には近畿で6位以内に入る必要がある。近畿大会でもベストを高めたいと気持ちを高めた。(写真は陸上男子砲丸投げで県総体チャンピオンとなった京増来都君)